国　語　言語活動を通して資質・能力を育成する授業づくり

国語科では、単元において育成を目指す資質・能力を明確に捉えた上で、児童生徒が言葉による見方・考え方を働かせて学びを深められるような言語活動を通して、資質・能力を育んでいくことが大切です。

【小学校第４学年指導事例】教材「プラタナスの木」（本時４／６時間）

１　単元の目標（単元において育成を目指す資質・能力）に即して、本時のねらいや評価規準等を設定する。

単元の目標
登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）エ

本時のねらいの例
マーちん（登場人物）の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

本時の評価規準・評価方法等の例
マーちんのプラタナスの木への思いが、おじいさんとの出会いの場面を通して変化したことを具体的に想像し、まとめている。　（学習シート）

〰 は、見方・考え方を働かせる手立ての例
★は、深い学びを実現している姿の例

２　見方・考え方を働かせて学びを深められるような言語活動を構想する。

Point　最後の場面におけるマーちんの気持ちの変化に気付けるように、比較する場面を精選し、その移り変わりに着目させます。

＜比較する場面＞

木は幹や枝葉がなくなると、根が水分や養分を送れなくてこまってしまうという話をおじいさんから聞いたマーちんは「ⓐふうん」と声を出した。

＜最後の場面＞

マーちんは、プラタナスの切り株の上に立ってみた。「なんだか、ⓑ根に支えられているみたいだよ」と言った。ⓒみんなが木の幹や枝になったみたいだ。

叙述を基にした児童の考えの例

ⓐから…木の根がこまるという話をあまり信じていないみたいだね。
ⓑ、ⓒから…前より木に親しみを感じているね。

叙述を基にマーちんの気持ちを想像させ、考えを伝え合うことを通して、新たな気付きを引き出したり、考えをより確かにさせたりします。

Point　マーちんの気持ちを具体的に想像できるように、吟味した発問を投げ掛け、児童に試行錯誤させます。

Ｔ：マーちんは、また、おじいさんに会えると思っていますか。
⇒視点を「マーちん」に定め、叙述に基づいた想像を引き出す
S1：「きっとまた、おじいさんにも会える」という文から、マーちんは、おじいさんに会えると信じていると思います。
S2：その文の前に「春になれば、プラタナスも芽を出すだろう。そうすれば」とあるけれど、どういう意味なのかな。
Ｔ：おじいさんとプラタナスに、つながりはあるでしょうか。
⇒両者の共通点に着目させ、相互の関係の気付きを引き出す
S1：プラタナスが幹や枝を切られて、切り株だけになったらおじいさんが姿を消したので、多分つながりがあると思います。
S2：もしかしたら、おじいさんはプラタナスなのかな…。
S3：★土の下にある根の大きさやたくましさに気付いたマーちんは、プラタナスはきっと芽を出すだろうと考えていて、そうすればおじいさんに会えると思ったのかもしれません。
S2：★だからマーちんは最後の場面で、幹や枝の代わりになり、「頑張って芽を出してね」と応援したのかもしれないね。

言葉の解釈や表現する内容について、児童が叙述を根拠にして考えたことを基に比較・検討するなど、言葉による見方・考え方を働かせながら試行錯誤する場面を意図的に設定することが大切です。